

110.だがあなたがたは、かれらを笑い草にした。あなたがたは、かれらを笑っている間に、われを念じるのを忘れることになった。

111.本当にかれらが耐え忍んだことにより、今日われは報いた。かれらこそ成功した者である。  
」

112.かれは仰せられよう。「あなたがたは、地上に何年滞巧していたのか。」

113.かれらは申し上げよう。「わたしたちは一日か、一日の一部分滞巧していました。勘定役（天使）に御問い下さい。」

114.かれは仰せられよう。「あなたがたの滞巧は束の間に過ぎない、あなたがたが（このことを）知っていたならば

115.あなたがたは、われが戯れにあなたがたを創ったとでも考えていたのか。またあなたがたは、われに帰されないと考えていたのか。」

116.アッラーは、尊くて気高い、真実の王者である。高潔な玉座の主を置いて外には神はない。

117.アッラーと一緒に、何の証拠もない外の神に祈る者の計算は主の御許にあるだけである。本当に不信者たちは、勝ち抜くことは出来ないであろう。

118.（祈って）言うがいい。「主よ、御赦しを与え、慈悲を与えて下さい。あなたは最も優れた慈悲を与える方であられます。」

## SURA 24.御光章〔アソ・ヌール〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

1.（これは）われが下した1章〔スーラ〕。われが定めたもので、明瞭な種々の印をその中に下した。必ずあなたがたは留意するであろう。

2.姦通した女と男は、それぞれ100回鞭打て。もしあなたがたが、アッラーと末日を信じるならば。アッラーの定めに基づき、兩人に対し情に負けてはならない。そして一団の信者に、かれらの処刑に立会わせなさい。

3.姦夫は、姦婦かまたは多神教徒以外（の女）とは、結婚することは出来ない。姦婦もまた、姦夫かまたは多神教徒以外（の男）とは、結婚することは出来ない。このことは信者に対し禁じられる。

4.貞節な女を非難して4名の証人を上げられない者には、80回の鞭打ちを加えなさい。決してこんな者の証言を受け入れてはならない。かれらは主の掟に背く者たちである。

5.しかし、その後悔いて自ら改める者は別である。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。

- 6.自分の妻を非難するもので、自分以外に証人のない場合は、単独の証言で、自分の真実なことをアッラーに誓って4度誓う。
- 7.そして5度目に、「もし自分の言葉が虚偽なら、アッラーの御怒りが自分の上に（下るように）。」（と誓う）。
- 8.また、かの女から、その懲罰を免じられる。つまりもしかの女が、アッラーに誓ってかれ（夫）の言葉が虚偽であることを4度誓い、
- 9.そして5度目に、「もし（夫の言葉が真実ならば、アッラーの御怒りが自分の上に（下るように））。」（と誓うならば）。
- 10.アッラーの恩恵があなたがたの上になく、慈悲もなかったならば（どうであろう。）本当にアッラーは、度々悔悟を許される英明な方であられる。
- 11.本当にこの虚言を広めた者は、あなたがたの中の一団である。これをあなたがたへの災いと思つてはならない。いや、それはあなたがたのため良いことである。かれらの中それぞれの者は、その稼いだ罪によ（り罰せられ）る。なかでもそれに大きく関与した者は、厳しい懲罰に処せられるのである。
- 12.あなたがたはそれを聞いた時、信者の男も信者の女も、自分自身で何故好意ある考えをしなかつたのか。そして、「これは明らかに中傷である。」と何故言わなかつたのか。
- 13.かれらは何故、これに対し4名の証人を挙げなかつたのか。証人を出さなかつたので、これらの者はアッラーの御目には虚言の徒である。
- 14.もしあなたがたに対するアッラーの恩恵と、現世と来世でかれの慈悲がなかつたならば、この事件に就いて（不謹慎に）話したことに對し、厳しい懲罰に処せられたところであつた。
- 15.見なさい。あなたがたは舌先でそれを受け止め、またあなたがたの口は、自分の知らないことを言った。そしてアッラーの御目には重大なことを、軽く考えていた。
- 16.あなたがたはそれを聞いた時、何故こう言わなかつたのか。「これはわたしたちの口にすべきことではない。アッラーに讃えあれ。これは大変な中傷である。」
- 17.アッラーは、もしあなたがたが信者なら、このようなことを決して繰り返してはならないと戒められる。
- 18.アッラーは、あなたがたに印を解き明かされる。本当にアッラーは全知にして英明であられる。
- 19.信仰する者の間にこの醜聞が広まることを喜ぶ者は、現世でも来世でも、痛ましい懲罰を受けよう。あなたがたは知らないがアッラーは知っておられる。
- 20.アッラーの恩恵があなたがたの上になく、慈悲もなかったならば（どうであろう）。本当にアッラーは親切極・なく慈悲深い方である。

- 21.信仰する者たちよ、悪魔の歩・に従ってはならない。あなたがたがもし悪魔の歩・に従うならば、かれは必ず醜行と悪事をあなたがたに命じるであろう。もしあなたがたに対し、アッラーの恩恵と慈悲がなかったならば、あなたがたの中一人も純潔になれなかったであろう。だがアッラーは、御心に叶う者を清められる。アッラーは全聴にして全知であられる。
- 22.あなたがたの中、恩恵を与えられ富裕で能力ある者には、その近親や、貧者とアッラーの道のため移住した者たちのために喜捨しないと、誓わせてはならない。かれらを許し大目に見てやるがいい。アッラーがあなたがたを赦されることを望まないのか。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。
- 23.無分別に貞節な信者の女を中傷する者は、現世でも来世でもきっと呪われよう。かれらは厳しい懲罰を受けるであろう。
- 24.その日、かれらの舌と手と足は、その行ったことに就いてかれらに（不利な）立証をする。
- 25.その日アッラーは、かれらが受けるべき応報を（凡て）払い戻され、かれらは、アッラーが真理であり、（凡てのことを）明瞭になされることを、知るであろう。
- 26.不浄な女は不浄な男に、また不浄な男は不浄な女に（相応しい）。純潔な女は純潔な男に、また純潔な男は純潔な女に（相応しい）。これらの者は、人びとの言うことに動じない。かれらには、容赦と栄誉ある御恵・があろう。
- 27.あなたがた信者よ、許しを求めて、家族に挨拶するまでは、自分の家以外の住まいに入ってはならない。それはあなたがたのために善い。必ずあなたがたは留意するであろう。
- 28.もし家に誰もいないと分ったならば、許しがあるまで、それに入ってはならない。もし帰るよう言われた時は帰れ。それはあなたがたのために一段と清廉である。アッラーはあなたがたの行うことを知っておられる。
- 29.あなたがたに必需品が備えてある、住人のいない家に入ることは罪にならない。アッラーは、あなたがたの現わすことも隠すことも知っておられる。
- 30.男の信者たちに言ってやるがいい。「（自分の係悠以外の婦人に対しては）かれらの視線を低くし、貞潔を守れ。」それはかれらのために一段と清廉である。アッラーはかれらの行うことを熟知なされる。
- 31.信者の女たちに言ってやるがいい。かの女らの視線を低くし、貞淑を守れ。外に表われるものの外は、かの女らの美（や飾り）を目立たせてはならない。それからヴェイルをその胸の上に垂れなさい。自分の夫または父の外は、かの女の美（や飾り）を表わしてはならない。なお夫の父、自分の息子、夫の息子、また自分の兄弟、兄弟の息子、姉妹の息子または自分の女たち、自分の右手に持つ奴隷、また性欲を持たない供回りの男、または女の体に意識をもたない幼児（の外は）。またかの女らの隠れた飾りを知らせるため、その足（で地）を打ってはならない。あなたがた信者よ、皆一緒に悔悟してアッラーに返れ。必ずあなたがたは成功するであろう。

32.あなたがたの中独身の者、またあなたがたの奴隷の男と女で廉正な者は、結婚しなさい。かれらがもし貧しければ、アッラーは恩恵により裕福にされよう。アッラーは寛恩深知であられる。

33.結婚（の資金）が見つからない者は、アッラーの恩恵により、富むまで自制しなさい。またあなたがたの右手が持つ者の中、（解放の証明）証書を求める者があって、あなたがたがかれらの善良さを認めるならば、その証明を書きなさい。なおアッラーがあなたがたに与えられた資財の一部をかれらに与えなさい。奴隷の娘たちが、貞操を守るよう願うならば、現世の果ない利得を求めて醜業を強制してはならない。かの女らが仮令誰かに強制されたなら、アッラーがやさしく罪を赦し、いたわって下さろう。

34.われは事物を明瞭にする印を下し、またあなたがた以前に過ぎ去った者たちの先例を示し、主を畏れる者への訓戒とした。

35.アッラーは、天地の光である。かれの光を譬れば、燈を置いた、壁(巧?)のようなものである。燈はガラスの中にある。ガラスは輝く星のよう。祝福されたオリーブの木に灯されている。（その木は）東方（の産）でもなく、西方（の産）でもなく、この油は、火が凡んど触れないのに光を放つ。光の上に光を添える。アッラーは御好・の者を、かれの御光に導かれる。アッラーは人びとのために、比(輪?)を挙げられる。本当にアッラーは凡てのことを知っておられる。

36.（この燈は）アッラーの許しによって、建てられた家の中にあり、かれの御名がそこで唱えられ、朝夕、そこでかれを讃えて唱念が行われる。

37.人びとは、交易や商品に惑わされないで、アッラーを念じ、礼拝の務めを守り、定めめの喜捨に怠りなく、かれらの恐れは心も目も転倒する日である。

38.アッラーはかれらの行った、最善のものに報われ、且つ恩恵により報奨を付け加えられる。アッラーは御心に叶、者に、際限なく与える。

39.しかし信仰のない者は、そのすることなすこと、砂漠の中の蜃気楼のようなもので、渴き切った者には水だと思われる。だがやってくれば何も見出せない。そこではアッラーの御前であり、かれの勘定が払われることを知るであろう。アッラーは清算に迅速であられる。

40.また（不信者の状態は）、深海の暗黒のようなもので、波がかれらを覆い、その上に（また）波があり、その上を（更に）雲が覆っている。暗黒の上に暗黒が重なる。かれが手を差し伸べても凡んどそれは見られない。アッラーが光を与えられない者には、光はない。

41.あなたは、天地の間の凡てのものが、アッラーを讃えるのを見ないのか。羽を拡げて飛ぶ鳥もそうである。皆それぞれ礼拝と唱念を心得ている。アッラーはかれらの行っていることを知っておられる。

42.天と地の大権はアッラーの有であり、アッラーに（凡てのもの）の帰り所はあるのである。

43.あなたがたは見ないか。アッラーは雲を駆り、やがてそれを相い合わせ、さらに固まりにされ、やがて慈雨が、その間から降るのを。また電を含む、山（のような雲）を天から下し、かれ

は、御好・の者をそれで撃ち、御好・の者を避けられる。稲妻の閃きは、本当に目を奪おうとする。

44.アッラーは夜と昼を次々に交替させる。本当にこれらの中には、見る目をもつ者への教訓がある。

45.またアッラーは、ありとあらゆる動物を水から創られた。そのあるものは、腹で這い、またあるものは2本足で歩き、あるものは4つ足で歩く。アッラーは御望・のものを創られる。本当にアッラーは何事につけ全能であられる。

46.われは明瞭な印の数々を下した。アッラーは御好・の者を正しい道に導かれる。

47.かれら（偽信者）は、「わたしたちはアッラーと使徒を信じ、服従する。」と言う。だがその後、かれらの一部は背き去った。これらの者は（真の）信者ではない。

48.かれらの間は裁きのために、アッラーと使徒の前に呼び出されると、見なさい。一部の者は回避する。

49.もし、かれらが正しいのなら、素直にかれの許にやって来るであろう。

50.かれらの心には病が宿っているのか、それとも疑いを抱いているのか。またはアッラーと使徒が、かれらに対し不公平な扱いをすると恐れるのか。いや、かれらこそ不義者である。

51.本当の信者たちは、裁きのため、アッラーと使徒に呼び出されると、「畏まりました。従います。」と言う。本当に、そのような人々こそ栄える者である。

52.アッラーと使徒に服従し、アッラーを畏れ、かれに自分の義務を尽くす者、そのような人々こそ（最後の目的を）成就する者である。

53.かれら（偽信者）は、もしあなたが（出征を）命じたならば、必ず出て行くことをアッラーに誓って厳粛に誓う。言ってやるがいい。「誓わなくてもよい。恭順こそ道理に叶う。本当にアッラーはあなたがたの行うことを熟知なされる。」

54.言ってやるがいい。「アッラーに従い、使徒に従え。あなたがたがもし背き去るとしても、かれにはかれの負わされた務めがあり、あなたがたにもあなたがたの負わされたものがある。だがあなたがたがもしかれに従うならば、正しく導かれるであろう。使徒に課せられることは、只明瞭に（啓示を）伝えるだけである。」

55.アッラーは、あなたがたの中C信仰して善い行いに勤しむ者には、あなたがた以前の者に継がせたように、この大地を継がせることを約束なされた。そしてかれらのために、かれが選ばれるものを、かれらの揺ぎのない宗教となされ、かれらの恐怖（不安の生活）を、安心無事（の境遇）に変えられる。かれらはわれに仕え、われに何ものをも配しない。だがそれ以後になお不信心になる者こそは、主の掟に背く者である。

56.それで礼拝の務めを守り、定め喜捨をなし、使徒に従え。そうすればあなたがたは、慈悲にあずかるであろう。

- 57.あなたは、不信心の者たちが地上で（アッラーの計画を）失敗させると考えてはならない。かれらの住まいは業火である。何と悪い末路であることよ。
- 58.信仰する者よ、あなたがたの右手が所有する者と、あなたがたの女子たちの中未成年の者でも、次の3つの場合は、（居間に入る時）あなたがたの許しを求めさせなさい。（即ち）早朝〔ファジュル〕の礼拝の前、昼中の（暑さのため）脱衣をしている時、それから夜〔イシャー〕の礼拝の後である。（これは）あなたがたのための3度の素肌（裸）の時である。これらの（時刻の）外は、（許可を得ないで）たがいに行き来してもあなたがたにもかれらにも、罪ではない。このようにアッラーは、あなたがたのために印を解き明かされる。アッラーは全知にして英明であられる。
- 59.あなたがたの子供たちが成年に達する時は、それ以前にそうしてきたように、（入室に際し）許しを求めさせなさい。このようにアッラーは、あなたがたのために印を解き明かされる。アッラーは全知にして英明であられる。
- 60.結婚を望めない、産児期の過ぎた女は、その装飾をこれ見よがしに示さない限り、外衣を脱いでも罪ではない。だが控え目にするのは、かの女らのために良い。アッラーは全聴にして全知であられる。
- 61.盲人でも遠慮は要らない。また足の身障者でも遠慮は要らない。また病人でも遠慮は要らない。またあなたがた自身も、自分の家で食べても良く、父方の家でも母方の家でも、兄弟の家でも、姉妹の家でも、父方のおじの家でもおばの家でも、母方のおじの家でも、母方のおばの家でも、あなたがたが鍵を持っている（家でも）、あなたがたの友人（の家でも）食べて良い。またあなたがたは、一緒にまたは別々に食べても、咎めはない。それで家に入る時は、アッラーから祝福された良い挨拶の言葉で、人びとに挨拶しなさい。このようにアッラーは、あなたがたのために印を解き明かされる。必ずあなたがたは理解するであろう。
- 62.（真の）信者とは、アッラーとその使徒を（心から）信じ、ある要件で（人びとが）集まり使徒と一緒にいる時、その許可を得るまでは立ち去らない者たちである。本当に何につけあなたに許しを求める者こそは、アッラーとその使徒を信じる者である。かれらが自分の要件で、あなたに許しを求める時には、良いと思う者は許し、かれらのためにアッラーの御赦しを請え。本当にアッラーは寛容にして慈悲深くあられる。
- 63.あなたがたは使徒の呼びかけを、あなたがた相栗間の呼びかけのようにはしてはならない。アッラーはあなたがたの中、密かに抜け出す者を知っておられる。それで、かれ（アッラー）の命令に違犯する者は試練が下り、または痛ましい懲罰が科せられるから、用心させなさい。
- 64.聞け、天と地の凡ての有はアッラーの有である。かれは、あなたがたのあるが儘を確と知っておられる。かれらがかれの許に帰される日、かれはかれらの行ったことを、かれらに告げ知らせるであろう。アッラーは凡てのことをよく知っておられる。